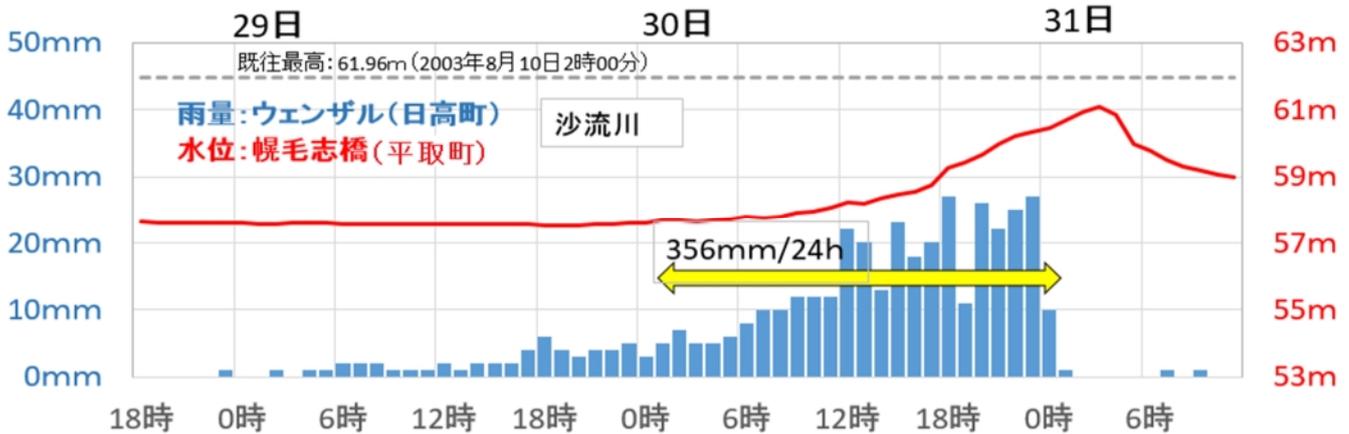


施工報告書

沙流川水系 重大災害・護岸復旧

日高山脈の西側にあたる日高地方は大雨にはなりませんでしたが、28日18時から31日18時までの72時間の雨量は、内陸の日高で9ミリ、沿岸の日高門別や鷓川でわずかに8ミリでした。ところが、水源の日高山脈で記録的な大雨となったため、日高町内を流れる沙流川が暴れ、国道274号の千呂露(ちろろ)橋が崩落するなど、大きな被害が出ています。日高町では8月21日の台風11号、23日の台風9号、そして30日の台風10号と、わずか10日間で3つの台風に見舞われ、被害額は9億円を超えると推計されています



上記豪雨により、北海道電力の重要施設の護岸が被災した護岸復旧に当たっては、河川管理者(北海道庁)との河川協議で、以下の理由からハイウォールに決定した。

- 1) 冬期間の短期間での完了
- 2) 護岸本体は流下した”土砂”の有効利用
- 3) 同程度の洪水に対応した工法
特に流木に対応できる工法

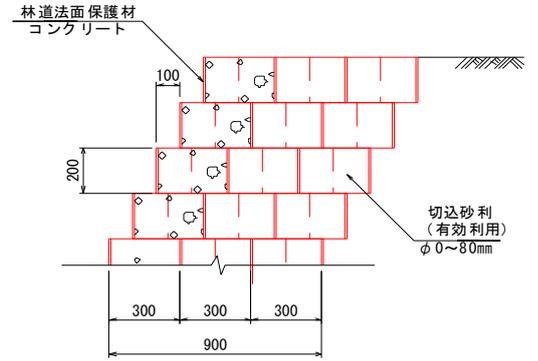
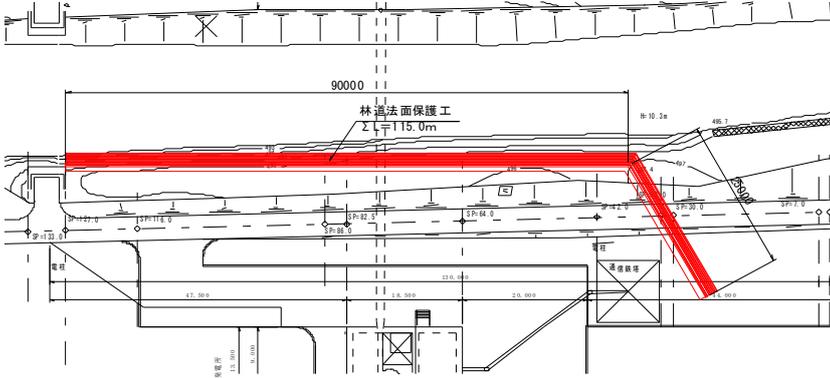
流量は、被災状況から勘案すると、700m³/s以上
 川幅=40m 水深=3.0m の場合
 流速≒6.0m/s
 表面セル:コンクリート充填



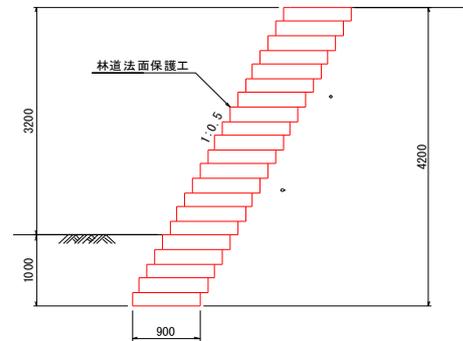
林道法面保護・護岸工の復旧図(北海道vs北海道電力 河川協議後)

ハイパーウォール(充填材:骨材、背面土:流用土石)

注記:流木(等)対策として表面セル充填材はコンクリートとする。



林道法面保護工 標準断面図
S=1:50



その後:数度の出水があったが、ハイウォールは十分にその機能を保っている。